

チャレンジいばらき



特集

「異世代による交流」が「地域のつながり」を強めます。

世代を超えてつながろう！

- ▶ チャレンジいばらき県民運動の事業実施報告
- ▶ 社会活動デビュー支援事業
- ▶ 団体会員を訪ねて ▶ ネットワーカーの活動紹介
- ▶ いばらきチャレンジアワード「支え合い2022」

ファイナリスト
プレゼンテーション・
表彰式観覧のお知らせ

社会活動デビューセミナー・交流会



ネットワーカー等連絡協議会代表者会議



こども食堂「たんぼぼ」



子育て支援 ビ・リーフ



株木建設株式会社 茨城本店



令和
4年度

ネットワーク等 連絡協議会代表者会議

令和4年7月13日(水)
ホテルレイクビュー水戸

本会議では、住みよい茨城づくりを目指し、地域の人たちのネットワークづくりに取り組むネットワーク（地域活動員）の皆さんによる活動報告や情報交換を行っています。

活動報告として、「令和3年度チャレいば助け合い隊応援事業」に取り組んだ3団体が発表しました。まず、「スキルアップ研修“スマホ講座”」を開催し、高齢者のIT活用、情報交換力アップに取り組んだ、下妻市ネットワーク等連絡協議会。次に、「沼沼クリーン作戦」において地域住民や行政の手が届きにくいエリアを清掃作業した、茨城町ネットワーク等連絡協議会。最後に、障がい者支援団体から購入した草花や肥料で、利根町庁舎入口道路に植栽する「環境美化保全及び障がい者自立支援」に取り組んだ、利根町ネットワーク協議会。

発表後の情報交換会では、各事業に質問や感想が寄せられており、参加者の皆さんが「自分ごと」として事例を捉え、自分達の地域活動にも応用しようという意欲が感じられました。

NPO法人設立説明会

チャレンジいばらき県民運動と茨城県では、NPOに関心がある方やNPO法人の設立を考えている方々を対象に、制度の概要などをわかりやすくお伝えする説明会を開催しました。今後の開催予定は、ホームページなどでお知らせします。ぜひご参加ください。



参加者の声
(アンケートより)

★法人設立までの流れのイメージが参考になった。

★法人化のメリット・デメリットがわかりやすく、またいくつかの規定に関する誤解が解けた。

県ではNPO法人設立に関する相談を随時受け付けていますので、事前に予約の上ご相談ください。

お問い合わせ

茨城県県民生活環境部 女性活躍・県民協働課（多文化・協働担当）

Tel.029-301-2175 Fax.029-301-2190 E-mail ▶ josei-kenmin1@pref.ibaraki.lg.jp

令和4年10月1日に、労働者協同組合法が施行されました。

労働者協同組合法の施行の際、現に存するNPO法人は、施行日（令和4年10月1日）から起算して3年以内に限り、その組織を変更し、労働者協同組合になることができます。

※組織変更には、法令に定める諸手続きが必要です。

＜厚生労働省 労働者協同組合法 相談窓口＞

専用電話

0120-237-297

（フリーダイヤル・受付時間：平日9時～17時）

＜厚生労働省ホームページ「労働者協同組合」＞

ホームページ ▶ https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14982.html



社会活動デビュー 支援事業

地域の困りごとの解決など、これから社会の新しい力になってみたいと考えている方々が、「はじめの一步」をスムーズに踏み出すための支援として、交流会とセミナーを行いました。



令和4年8月27日(土) 水戸三の丸ホテル

水戸市

交流会

参加者は「自分達の活動を広めたい」「活動拠点を広げたい」「仲間を集めたい」など、様々な理由で県内各地から集まった37名。

参加者全員による15秒自己紹介からスタートした交流会。施設運営者や、活動実践者による発表を参考にしようと熱心に聞き入った後は、コミュニケーションがとりやすいスタンディング形式の会場を自由に動き回り、積極的な名刺交換や情報共有が行われていました。

社会活動デビューセミナー



第1回

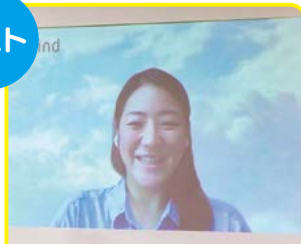
これからの社会活動のはじめ方

～はじめの一步からソーシャルイノベーションまで～

ゲスト



有限会社モーハウス
光畑 由佳さん



NPO 法人パブリックマインド
公山 倫子さん

令和4年9月24日(土) 茨城県三の丸庁舎

水戸市

子育て中に芽生えた問題意識から、社会の意識変換を目指して起業した光畑さんと、サラリーマン経験を活かして社会活動を始めた公山さん。きっかけも活動内容も異なる二人が揃って口にしたのは、「私の困り事＝他の人も困っているだろう、その人達にも届けばいいという想いで、まずは動く」(光畑)、「誰かのためになりたい気持ちをアクションに」(公山)という「行動を起こす」事の大切さでした。

世代を超えてつながろう!

ひたちなか市の環境を良くする会《ひたちなか市》PICK UP



詳しくはコチラ▶



✓ 休耕地を活用して作物栽培!
収穫物は、子ども食堂へ寄付

✓ SNSでの情報発信、
海外からの反響も。
環境問題は、世界的課題

✓ 自分ごととして
身近なことから
始めよう

市内で活動していた市民団体が合併し、市の支援を受け「ひたちなか市の環境を良くする会」として環境問題へ取り組み始めて15年目。会員は、20代から80代で、子、孫、次世代に良い環境を残したいという想いを持ちながら活動しています。中には、家族で環境問題に取り組もうと、家族会員として環境活動に参加されている方もいます。夏休みに開催する休耕地を活用したそばやジャガイモの栽培体験会は、多くの家族連れでにぎわいます(近年はコロナ禍のため小規模開催)。子どもでも簡単・均一にそばの種を蒔けるようにと、竹の間伐材で作った種まき機が大活躍。また、間伐竹を活用した花器の製作や段ボールコンポスト講習会など年齢を問わずに環境問題を身近に感じられるよう、工夫をこらした講習会を開催しています。小川会長は、イベントへの参加をきっかけに環境問題に興味を持ち、家族で話し合いをする機会になれば嬉しいと話していました。

《ひたちなか市の環境を良くする会》会長 小川 和昭さん

PICK UP まちづくり市民グループ「しもつま3高」《下妻市》

✓ 多世代活動のコツは、若者の気付きも
年長者の知見も同等に取り入れる事

✓ まちづくりとは、自分が
住んでいる場所を
楽しくしていく事

✓ 多様な人をフラットに
受け入れる意識が
居心地の良さを生む

しもつま3高は、まちにコミットして、自分事として取り組む人が集まる「まちづくりの学校」。一人ひとりが主体的なプレイヤーとして活動しています。運営するコミュニティスペース「かふえまる」は、音楽、フラダンスなど会員が仲間と楽しむ活動のほか、外国食を無料提供してその国を知ってもらう取組み、ボランティアが交代で子ども食堂を併設した食堂を切り盛りする事業など、多様な利用者で賑わいます。同会は固定費を行政の補助金で賄っていますが「行政の補助金依存だけではなく、自分達の活動費でやりたい事をやる」が前提で会員の独立採算事業がほとんどです。多様な「居場所」を提供するために、世代や国籍を問わず誰でも気軽に立ち寄れる仕組みも整えています。谷島副会長が「面白い人達の集まり」「誰でもチャレンジできる場」と称する同会。様々な挑戦をしてみたい人を受入れ、「はじめての一步」を応援する学校でもありました。

《まちづくり市民グループ「しもつま3高」》



詳しくはコチラ▶



副会長 井上さん、宮本さん、鈴木さん、青木さん、
小笠原さん、大塚さん、副会長 谷島さん、荒川さん

「異世代による交流」が「地域のつながり」を強めます。

高齢者と若者や子どもたちが世代を超えて交流している団体を紹介します。

こども食堂「たんぽぽ」《笠間市》

PICK UP



体験の中学生

✓ 必要としている人に届けたい、
そんな想いを込めて

✓ 季節感を大切に！
食事を通して次世代に
引き継ぐ伝統

✓ 美味しかったよ！
の一言が、
活動の励み



地域交流を目的とした居場所づくりを2017年7月から始めた「こども食堂たんぽぽ」。始まりは民生委員として活動していたメンバー5人が、子ども食堂関連のセミナーに参加したことがきっかけです。使用している米と野菜は、知り合いからの寄付で賄っています。支援者や市の施設を利用させていただいているおかげで、低価格（200円）で提供ができていると代表の原田さん。コロナ前は、子どもたちが手伝いをし、「これ美味しいね」と会話が弾み、地域の大人も子どもも笑顔で繋がる居場所でした。コロナ禍で一時活動休止になり、現在はテイクアウト弁当に変更していますが、11人のメンバーで約240食を作っているため、1日がかかります。子ども達に、「今日は誰と来たの?」「お手伝い偉いね」など積極的に声かけを行っています。1日も早くみんなで食事をするスタイルに戻し、じっくり交流したいと望んでいます。

《こども食堂「たんぽぽ」》

代表 原田さん、芥川さん、高田さん、菊池さん、石松さん、
生天目さん、井坂さん、箱田さん、長谷川さん、成田さん、飯田さん



PICK UP

子育て支援 ビ・リーフ 《水戸市》

✓ 地域も世代も超えて共に楽しむ
「昔ながらのご近所さん」のようなつながり方

✓ 先入観を持たず、
多様な考えに向き合う事が
多世代交流のコツ

✓ 学校、家以外の帰れる
場所、「ホームグラウンド」
を目指す



2017年、「仲間と歌う場所が欲しい」と願う子ども達に輝ける場と機会を提供しようと、ママ友3人で設立した子育て支援 ビ・リーフ。運営・支援する「合唱サークル 和〜なごみ〜」は現在、小学5年生から高校2年生の8名で活動中。サークル名、キャラクター考案から、曲決め、イベント企画やMCまで、子ども達が主体。「和〜なごみ〜」を応援する家族・友人が結成した大人の合唱サークル「ふぁみ♪なご」と共に、江田先生指導のもと三世代が歌で交流しています。昨年12月、オペラに挑戦した子ども達は大勢の大人達と一緒に練習に励み中で、社会との関わり方を新たに学んだようです。菊池代表に「世代を超えたつながり方のコツ」を尋ねると、「子ども達が心を込めて歌う姿に感化された人が集まり、結果的に多世代となった」経緯から、大切なのは「自分達が活動を楽しみ、感謝を忘れず、仲間と自分を信じて試行錯誤しても継続する事」と話してくれました。

《子育て支援 ビ・リーフ》代表 菊池 薫さん、西連寺 明子さん、梶田 麻子さん／合唱指導 江田 真姫子さん

詳しくはコチラ▶



団体会員を訪ねて Vol.3

株木建設株式会社 茨城本店

茨城県水戸市吉沢町311番地1 <https://www.kabuki.co.jp/>

事業内容 ● 総合建設業



大正10年(1921年)4月創業の株木建設株式会社。霞ヶ浦海軍航空隊の飛行場建設を起点に、霞ヶ浦の干拓、治水工事など県内の公共事業等を経て、土木、建築事業を中心に全国展開中。

平成6年8月、当時社長の「地域のためになる活動を」という一言から、旧社屋のあった水戸駅南口の道路や河川沿いで社員有志による清掃活動を開始。以降、年3～4回の活動を現在まで継続する中で、社員の意識が変わった、と柳橋さんは振り返ります。例えば、渋々参加していた社員が、実際に参加して得た達成感や使命感から「次はいつ?」と積極的になった例や、「子どもと家族ぐるみで」「運動がてらに」「社員同士のコミュニケーションの場に」と、社員が楽しんで参加する様子から、地域・会社・社員にとってwin-winのイベントになったと感じています。社員に根付いた美化精神は現在、毎朝の社屋周辺の清掃に息づいています。道路清掃をしながら通学中の子ども達と挨拶を交わすうちに「みまもり」の意識が芽生えた、と言う加倉井さん。緊急時に駆け込む子どもの受け入れのような、会社としてできる新たな社会貢献を考えていきたいと話していました。



《管理部》 部長 柳橋 一明さん
主任 小堀 千子さん 次長 加倉井 康弘さん

チャレンジいばらき県民運動

会 員 募 集



チャレンジいばらき県民運動では、福祉、環境、青少年、防犯・防災など様々な分野での地域活動・市民活動を、県民・団体・企業・行政が手を繋いで支え合い、共助による新しい茨城の実現に向けて、社会の課題に挑戦する県民運動を展開しています。このような趣旨にご賛同され、運動に参加していただける団体・企業、個人の会員を募集しております。

- ★団体会員(年会費) 10,000円
- ★個人賛助会員(年会費) 2,000円



NPO・地域活動者向け交流・学び合いの場

令和4年度

寺子屋 サローン

- 第28回 令和4年7月17日(日) 交流サローンいばらき
- 第29回 令和4年8月28日(日) 県北生涯学習センター
- 第30回 令和4年9月11日(日) 県南生涯学習センター



地域活動に活かす ゼロからのLINE講座

今回の寺子屋サローンは、大学生と不登校児童生徒をオンラインでつなぐ学習支援を行っている、For Everyone Studyの植竹智央さんを講師にお招きし、水戸・日立・土浦の3会場で、初心者向けのLINE講座を行いました。

LINEアプリのインストールから始まり、Wi-Fiの接続、友達追加、LINEグループの作成、メッセージと写真の送り方やビデオ通話まで、LINEの基本が身につくボリュームたっぷりの内容でした。参加者同士でサポートし合いながら、終始和やかな雰囲気で行われ、使い方が難しいと思っていた方も楽しく学べました。今年度は、ICTに関する講座を県西・鹿行でも行う予定です。詳細は、決まり次第、ホームページやメールマガジンにてお知らせいたします。皆さまのご参加を、お待ちしております。

各サービスや講座の詳細は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

交流サローンいばらき

水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階
Tel.029-302-2160 Fax.029-233-0030
ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp/saloon/>
E-mail ▶ saloon@challenge-ibaraki.jp



〔開館時間〕

9:30～12:00、13:00～17:45
平日・土日
(火曜日・祝日・年末年始は休館)

県民運動を地域で支える

地域活動員 ネットワーカー の活動紹介

● 阿見町ネットワーカー協議会 ●

平成20年7月22日設立。会員は36名(男性3名、女性33名)。チャレンジいばらき県民運動の理念のもと、『ひとがひとを思いやり たがいに認め支えあい くらしていこう この阿見町で』をモットーに活動しています。

7月16日(土)、町中央公民館でキャンドルナイトinアミを開催しました。このイベントは、平成25年度から東日本大震災の犠牲者への追悼を目的として始まりました。コロナ禍でここ3年間は実施が見送られていましたが、今回は感染対策を十分に取しながら、東日本大震災だけではなく、近年の国内における災害の犠牲になられた方々への追悼と家族や地域の絆への思いを次の世代へ紡いでいくことを目的として実施することができました。今後も、イベントへの参加等を通し、「阿見町」や「茨城県」の魅力を発信していきます。

会長 石井 早苗



● 小美玉ネット ●



小美玉ネットは、平成18年11月13日に設立し、「元気で住みよいまちづくり」を目指して会員20名(男性6名、女性14名)で活動を行っています。

コロナ禍で活動が制限されている中、昨年度は女性団体や市民との霞ヶ浦湖岸清掃や、中央高校の生徒たちとの羽鳥駅～中央高校間の清掃活動、会員同士の交流が深められたアクリルタワシ教室、地域コミュニティ団体主催のイベントでアクリルタワシの普及・啓発など様々な事業を行うことができ、多くの人達との交流もできた1年となりました。これからも地域のネットワークづくりのコーディネーターとして、人との繋がりを大事にしながら、活動を行っています。

会長 井坂 英二



チャレンジいばらき県民運動

ネットワーカー募集中!

地域活動員(ネットワーカー)は、居住する地域において、地域の人たちのネットワークづくりや住み良い地域づくりに取り組んでおり、現在、約800名の方々が県内各地で活躍しています。皆さんも、一緒に活動しませんか?

詳しくは、お住まいの市町村へお問い合わせください。

いばらきチャレンジアワード「支え合い2022」

ファイナリストプレゼンテーション・表彰式

観覧のお知らせ

このアワードは、福祉、環境、青少年育成、防犯・防災、地域づくり、コミュニティづくり、SDGsの推進など、様々な分野における社会的課題の解決に向けた、「社会貢献性」、「独自性」、「継続性」及び「発展性」の高いプランを表彰し、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成するとともに、非営利の社会貢献活動を促進することを目的として開催いたします。一次審査を通過したファイナリストが、プレゼンテーションを行います。観覧についての詳細、申込方法などはホームページをご覧ください。

日時 ▶ 11月23日(水・祝) 13:00～

場所 ▶ 茨城県立図書館 2F視聴覚ホール

オンライン
配信します



投稿記事を募集しています！

チャレンジいばらき県民運動では、茨城県内各地域の情報や、地域活動員（ネットワーク）の活動の投稿記事を募集しています。投稿していただいた内容は、広報紙「チャレいばらき」や当県民運動ホームページ上でご紹介する予定です。ぜひ、お気軽に投稿してください。

登録方法



「地域活動情報」
はコチラへ

「取り組み情報」
はコチラへ



メルマガ会員を募集しています！

「チャレいばらきメールマガジン」は、チャレンジいばらき県民運動・交流サロンのいばらきからのお知らせや地域活動の最新情報やお役立ち情報を提供するメールマガジンです。

毎月1回程度お届け予定です。
ぜひご登録ください！

登録方法

右のQRコードを読み込んでいただくか、
下記のメールアドレスに空メールをお送りください。

challengeibaraki@y.bmd.jp



編

集

後

記

町の馴染みの梨屋さんに梨を買いに出かけた。その帰り走る車に真っ赤な色が飛びこんで来た。黄色に色づき始めた田んぼの畔道に咲き出した彼岸花だった。そう言えば先ほどピンクと白のコスモスもよその庭先で咲き始めていた。何があっても季節は変わらず巡って来る。あの冬から春、そして夏から秋そしてまた冬へと同じ季節が間もなく三回も巡って来るのにコロナは退散しない。数日前もらった社会活動の仲間の葉書に「大事をとって人にも会わず、どこにも出掛けず、じっとして家の中にいた。コロナ前は好きな美術館でもあれば東京でもどこでもヒョイと出掛けていた。今日自宅の庭先に出て驚いた。脚力の余りの衰えに。もう手遅れだ。」と。「気づいたら今からでも出来る事をやろうよ。」と私は月並みな事を言った。我慢しないで 皆さん もう飛び出しませんか。仲間と会えばきっと元気をもらえる気がします。勿論用心怠りなく。(県民活動推進員 菊地)

大塚初重さんが7月21日に逝去されました。大塚さんは戦後日本の考古学の基礎を築き、茨城の遺跡発掘に多大な貢献と足跡を残されました。中でも、鮮やかな彩色壁画で有名な虎塚古墳（ひたちなか市）の発掘や国内で類例を見ないと評価された三昧塚古墳（行方市）の金銅製馬形飾付冠の発掘等、古代の舞台で燦々と輝く常陸の国の扉を開いてくれました。また、虎塚古墳の一般公開を実現させるなど文化財保護への理解を深める為に尽力され、石室内部の見学者は1980年の公開以来12万人を超えました。三昧塚古墳は大塚さんが単独で指揮をとった最初の発掘調査でした。今年、県立歴史館で三昧塚古墳ジオラマ展が開催され1500年の時を経て蘇った「美」に感動と共に故郷への誇りが湧くのを覚えました。茨城には歴史に培われた豊かな文化が根ざしています。「チャレンジいばらきふるさと自慢事業」への多彩なアプローチを大切にして次代に繋ぐ力を養いたいと思います。(県民活動推進員 菅谷)

今年4月から、本誌「チャレいばらき」の発行に関わる「魅力発見・発信グループ」の担当となりました。活動としては、まだ会議に1回のみ参加でわからないことばかりです。世の中がコロナ禍、ウクライナ危機、異常気象などにより誰もがこれまで想像もしてなかったことが起こっています。そのような中でも私たちができることを探し、皆さまの情報発信のお手伝いや皆さまに役立つ有益な情報の共有ができればと考えておりますのでよろしくお願い致します！(県民活動推進員 福岡)

お問い合わせ

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

〔発行〕チャレンジいばらき県民運動 令和4年11月1日発行
〔編集〕県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)



チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階

Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030

ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

